

第3章 善光寺平の水田遺跡

第1節 水田遺跡の分布と検出水田跡

善光寺平の中央部を流れる千曲川は、善光寺平南部の更埴市稲荷山付近で北東に屈曲し、盆地内を蛇行しつつ若穂付近で犀川と合流し北上している。この千曲川両岸には自然堤防とその背後に後背湿地が形成されており、主な水田遺跡はこの後背湿地に立地している。第1図と第1表は善光寺平での主要な水田遺跡と検出水田を示したものである。以下、検出された水田を概観する。

犀川以南

主な水田遺跡としては石川条里遺跡、更埴条里遺跡（屋代遺跡群を含む）がある。千曲川屈曲部分では、近年、高速道路・新幹線建設に伴い自然堤防と後背湿地が連続的に調査され、左岸の石川条里遺跡では、弥生中期と後期の畦畔、古墳前期・9世紀後半・近世の埋没水田、対岸の屋代・更埴条里遺跡では古墳中期と9世紀後半の埋没水田、屋代遺跡群北側の窪河原遺跡で中世と近世の埋没水田が検出されている。屋代②～④区で見つかった古墳中期の小区画水田は、東西方向の範囲は不確定ながら森將軍塚古墳直下の後背湿地が水田域であったことを証明した。また、古墳水田と条里水田と水路の位置が重複する場所が見られたことは（第2図）、一重山付近から自然堤防を通り後背湿地に配水する水路網が古墳水田の段階で形成されていたことを示す。奈良～平安時代の水田では、木簡が出土した屋代⑥区の旧河道部分で7世紀後半から9世紀前半の埋没水田が5面、更埴条里A～C地区では9世紀前半に泥炭層で埋没した水田が検出されている。ともに正方位の水田ではなく、条里型水田出現直前の水田様相を捉えられる資料である。9世紀後半の条里型水田は石川条里遺跡、屋代遺跡群、更埴条里遺跡とも広範囲で確認され、水田面を被覆する厚い洪水砂は同一洪水に起源するものと判断される^(註1)。屋代遺跡群・更埴条里遺跡（高速道地点）では、一町四方（計測平均値109.035m²）の坪区画と所謂「半折」を基本とした坪内区画が明確となった。自然堤防上の屋代遺跡群（①区）では、坪内に集落・水田・畠が混在する様相が捉えられ、集落域と水田域は坪もしくは坪二等分単位で、畠は半折区画が単位となっていることが認められた（第3図）。山城国葛野郡班田図^(註2)には、宅地と荘田（水田）が混在する坪、荘田（水田）と荘畠（陸田）が混在する坪が描写されており、坪内の土地利用が必ずしも一様でないことは荘園図でも確認されている。一方後背湿地の更埴条里遺跡では、水田面に耕作痕跡が明瞭に残っており、耕作痕跡の形態が3種類に分類された（第4図）。耕作痕跡は田面ごとに異なっていることから、埋没直前の農作業の進行は、田面ごとに異なっていたことがうかがえた（河西1999）。耕作痕跡はすべての田面で確認されたわけではなく、耕作痕跡が残る田面が洪水直前の耕作域と仮定すると調査区の約半分が非耕作域であった可能性が高く、これを「かたあらし的耕作」（戸田1959）と見ることもできよう。なお、自然堤防上に立地する屋代遺跡群新幹線地点（6区）の大畦畔S C 6003がN-41°-Wで、高速道地点より32～37°のずれが見られた。高速道地点に見られる正方位の条里地割が新幹線地点まで施工されていないことが明かとなった。更埴条里遺跡では昭和36～40年の学術調査以降、開発・改築に伴う発掘調査により条里地割の範囲等が明確になりつつある。9世紀後半の大畦畔・水路からすると、条里地割の範囲を北限は屋代④区、南限は有明山山裾、西限は馬口遺跡1号畦畔、東限は現・沢山川付近（不確定）に施工されていたと推測される。特に馬口1号畦畔

(南北方向)と更埴条里遺跡SC1002(東西方向)が卓越する規模をもつことから古代道路と解釈され、これが条里設定の基準となっていたと判断される(河西1999)。

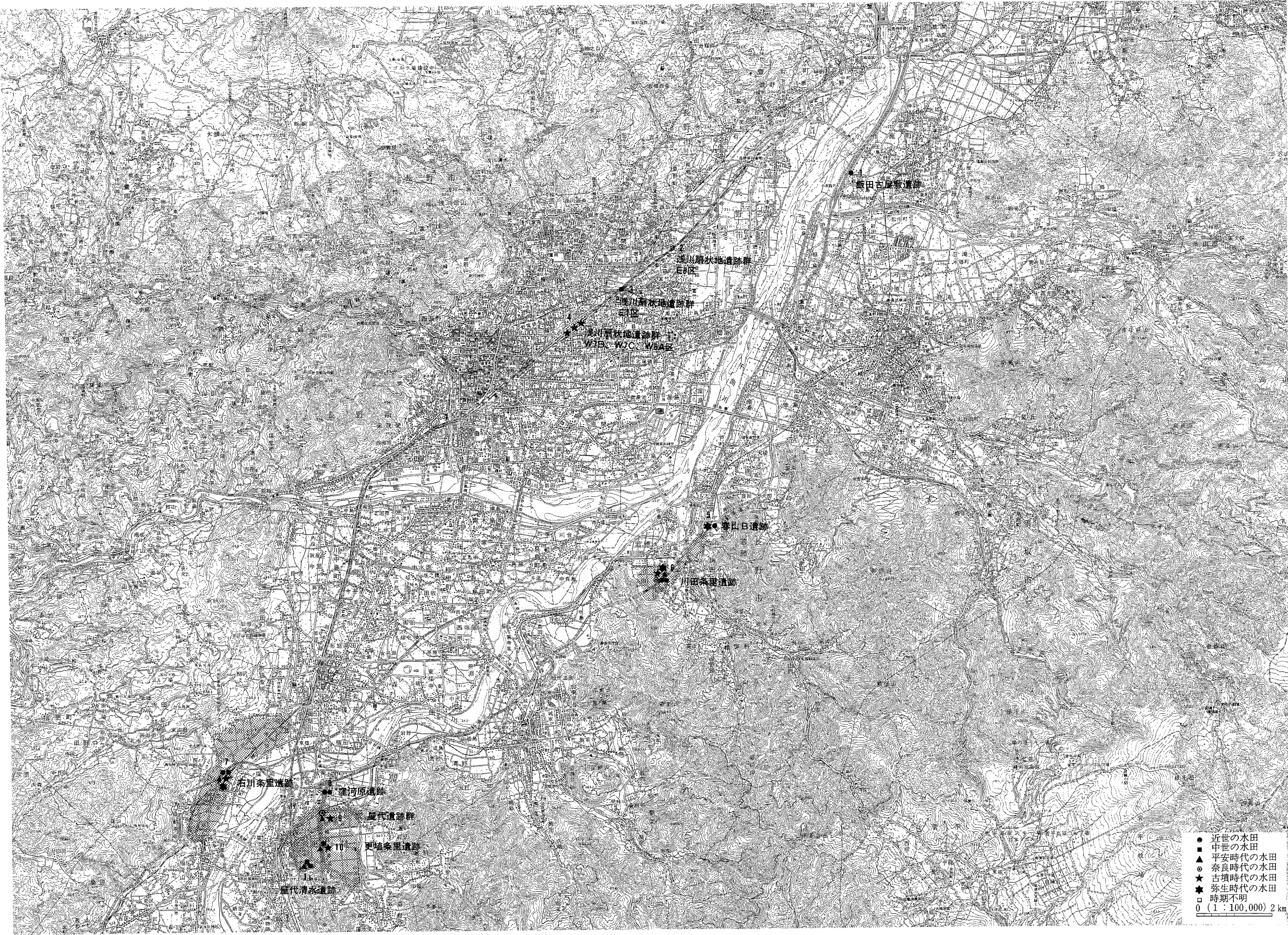
犀川以北

浅川扇状地遺跡群では、北陸新幹線建設に伴い扇状地扇央付近を縦断する形で発掘調査が実施され、古墳時代前期～中期^(註3)の小区画水田と中世の埋没水田が検出された。長野市三輪・古野に所在する前者では、地形的に低い場所に水田(W7B・C区・8A区西側)、高まりに立地する集落(W8B区)とが連続的に捉えられた。両者の境界(W8A区東側)では不規則に溝が走行し、主たる遺構は確認されない一種の空白域が存在していたことが判明している。この様相は微高地縁辺に位置し、畦畔・溝が不規則に走る川田条里遺跡E地区の古墳前期の様相に酷似するものである。浅川扇状地遺跡群の水田跡では、水路を伴う大畦畔が傾斜に平行方向に並走している。周辺での古墳水田の検出例がなく推測の域を脱しないが、扇状地上の一角ではこの段階に扇状地扇頂部方向から取水する水利網が整備されていたと考えられる。水田は扇状地扇頂部方向から流れたと考えられる厚い洪水砂で被覆されており、W7B区の大畦畔西側に限定して水田面直上に灰白色シルトの堆積が確認された。このシルトは最初に押し寄せた洪水性堆積物(はなどろ・端泥)と判断され、シルトの分布範囲と集落域で砂層堆積が確認されていないことから、水田は北西方向からの洪水で埋没したことがうかがえた。

長野市稲田で見つかった中世の水田は、現・浅川と信越線との交差点(めがね橋)北側で見つかったものである。水田面は浅川と近接する調査区南側から北側に階段状に下がっており、浅川近接地点の水田面は黄褐色砂層で埋没し、水田面には畦畔で折り返して田面全域を歩いた足跡(歩行列)が確認された。調査区南端では浅川の旧河道が確認されたことから、浅川の氾濫で埋没したものと判断される。さらに、善光寺平北部の千曲川氾濫原に立地する飯田古屋敷遺跡では、千曲川の氾濫で埋没したと思われる近世の水田が検出され、倒れた状態の稲株が検出されている。

犀川・千曲川合流付近

若穂地区の後背湿地に立地する川田条里遺跡では弥生時代中期～近世の埋没水田が検出されており、弥生時代後期と近世の水田はその一部が隣接する春山B遺跡でも認められている。川田条里遺跡は特に後背湿地中央部分(C地区)の土砂堆積が厚く、地表面下約4.8mに古墳時代前期水田が犀川起源の洪水砂で被覆され残っていた。千曲川起源の洪水が主体を占めるなかで、保科川の氾濫に起源するものも含まれていた可能性がある。川田条里遺跡における水田跡の変遷については、第3分冊第2章で記載されているため割愛し、本節では川田条里遺跡と春山B遺跡で見つかった近世水田について触れる。川田条里遺跡E2地区と春山B遺跡の近世水田を示したのが第8図で、両者は同一洪水砂で埋没したものと判断される。なお、圃場整備以前まで遺存した表層条里を記録した図面が確認されなかったため、第8図には現在の農道・水路の位置を示した。昭和22年に米軍が撮影した航空写真と第8図によると、川田条里遺跡と春山B遺跡の調査区境界に坪境が存在していたことがうかがえる。春山B遺跡の近世水田は東西に長辺をもつ水田で、水田一筆は短辺約14m、長辺約35.5m規模(497m²)であったことがわかる。一歩3.3m²(一反991m²)とすると1/2反になる指摘がされている(臼居1999)。一方川田条里遺跡の水田では、南北大畦畔1条・南北小畦畔6条、東西小畦畔7条が検出されている。4辺を畦畔に囲まれた区画はなく、水田一筆の規模と形状は不明である。仮に水田一筆面積が1/2反であったとすると、東西畦畔幅が7～23mであることから南北に長い水田が想定される。坪内区画の軸方向の相違は上記の航空写真でも確認され、近世から表層条里まで坪内の区画方法が基本的に踏襲されていたことがうかがえる。



第1図 善光寺平の水田遺跡

第1表 善光寺平における検出水田跡一覧

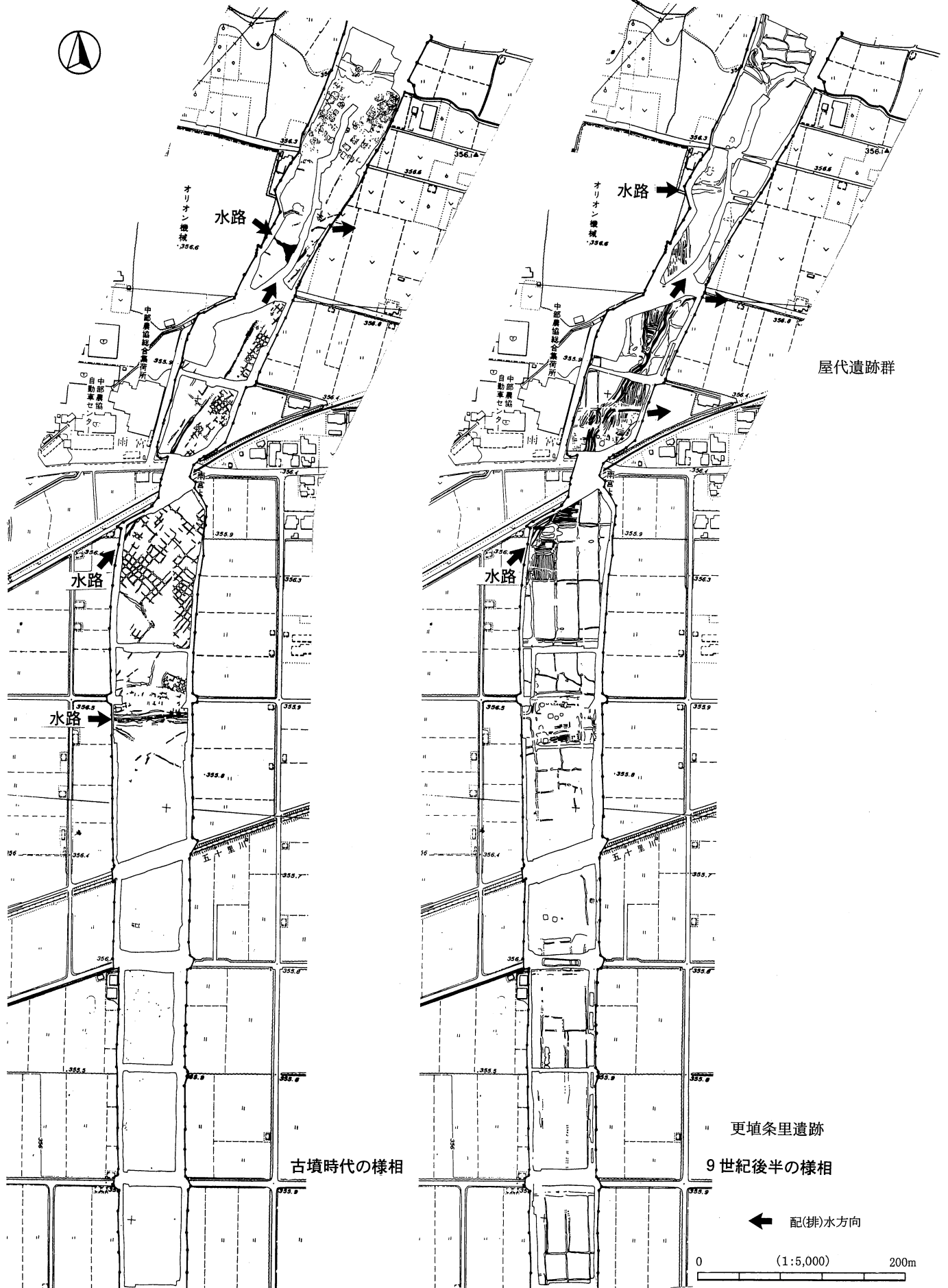
遺跡名	調査主体	調査地点	所在地	遺跡の立地	時期	検出遺構	検出面積	遺存状況及び	備考	文献
1 飯田古屋敷遺跡	県埋文センター	高速道地点	上高井郡小布施町飯田字古屋敷	千曲川右岸の氾濫原	近世	水田跡	1面	A		1
2 浅川扇状地遺跡群	県埋文センター	E 8 区 E 1 区 W 7 A、W 7 C、W 8 A	長野市上駒沢 長野市稲田 長野市古野	浅川扇状地の扇央～扇端部	中世以前 中世(鎌倉以降) 古墳前期～中期	畦畔状遺構 水田跡 水田跡	1面 1面 1面	D A A		2
3 春山B遺跡	県埋文センター	高速道地点	長野市若穂郷内字田中ほか	千曲川右岸の自然堤防帯と後背湿地	近世	水田跡	1面	A	川田条里遺跡E 2 地区の近世水田の 続き	3
4 川田条里遺跡	県埋文センター	高速道地点	長野市若穂川田字寺前・領家ほか	千曲川右岸の後背湿地と自然堤防縁辺	弥生後期 近世(18世紀) 中世 平安(9世紀) 奈良(8世紀) 古墳後期 古墳中期 古墳前期 弥生後期 弥生中期	水田跡 水田跡 水田跡 水田跡 水田跡 水田跡 水田跡 水田跡 水田跡	1面 4面 2面 6面 1面 1面 1面 8面 4面 3面	A A、D A A、B A A、C A、B、C A、C A、C	川田条里遺跡E 2 地区の弥生後期水 田の続き	3
5 石川条里遺跡	長野市教委 県埋文センター	高速道地点	長野市若穂川田字寺前ほか 長野市篠ノ井石川、堀崎	千曲川右岸の後背湿地 千曲川左岸の後背湿地	近世 中世 平安(9世紀後半) 古墳前期 弥生後期 弥生中期 平安(9世紀後半) 平安(9世紀後半)	畦畔 水田跡 水田跡・畦畔 条里水田 畦畔、杭列畦畔 畦畔、杭列畦畔 畦畔、杭列 条里水田 条里水田	1面 2面 1面 1面 1面 1面 1面 1面	A AまたはC A B、E B、E E A A	畦畔は疑似畦畔(上層水田の畦畔痕 跡)の可能性あり。	6
6 篠河原遺跡	県埋文センター 長野市教委	新幹線地点	長野市篠ノ井	千曲川左岸の後背湿地	平安(9世紀後半)	条里水田	1面	A	トレンチ調査	5
7 屋代遺跡群	県埋文センター	高速道地点	更埴市大字南宮字篠河原	千曲川右岸の自然堤防上及び低地	近世 中世 平安(9世紀後半) 平安(9世紀後半) 奈良(8世紀前半) 奈良(7世紀後半) 奈良(7世紀後半) 古墳前期 平安(9世紀後半) 平安(9世紀後半)	水田跡 水田跡 水田跡(条里水田) 水田跡(第2水田) 水田跡(第3水田) 水田跡(第4水田) 水田跡(第5水田) 水田跡(VI層水田) 水田跡(条里水田) 水田跡(条里水田)	1面 1面 1面 1面 1面 1面 1面 1面 1面 1面	A A A A A A A A(一部) A A	弘化4年の善光寺地震で埋没した可 能性が高い。	14 14 15 15 15 15 15 16 17 18~24
8 更埴条里遺跡	県埋文センター 更埴市教委 更埴市大字屋代 更埴市大字屋代 更埴市大字屋代	新幹線地点 屋代高等学校地点 高速道地点	更埴市大字屋代 更埴市大字屋代 更埴市大字屋代字セツ石ほか	千曲川右岸の自然堤防上 千曲川右岸の自然堤防上 千曲川右岸の後背湿地と自然堤防背面	平安(9世紀後半) 平安(9世紀後半) 平安(9世紀後半)	水田跡(条里水田) 水田跡(V層水田) 水田跡(VI層水田) 水田跡(条里水田) 水田跡(条里水田)	1面 1面 1面 1面 1面	A B D A A		15 15 16 25 26 26 26
9 屋代清水遺跡	長野市教委 更埴市教委	408地点ほか 県立歴史館建設地点	更埴市大字屋代 更埴市大字屋代字清水	千曲川右岸の後背湿地	近世 中世 平安(9世紀後半)	水田跡(水田面3) 水田跡(水田面2) 水田跡(条里水田、水田面1)	1面 1面 1面	D Cか A		26 26 26

遺存状況凡例
A：埋没水田(砂層)
B：埋没水田(泥炭層)
C：連続耕作・土壌差
D：酸性鉄集積帯
E：杭列畦畔

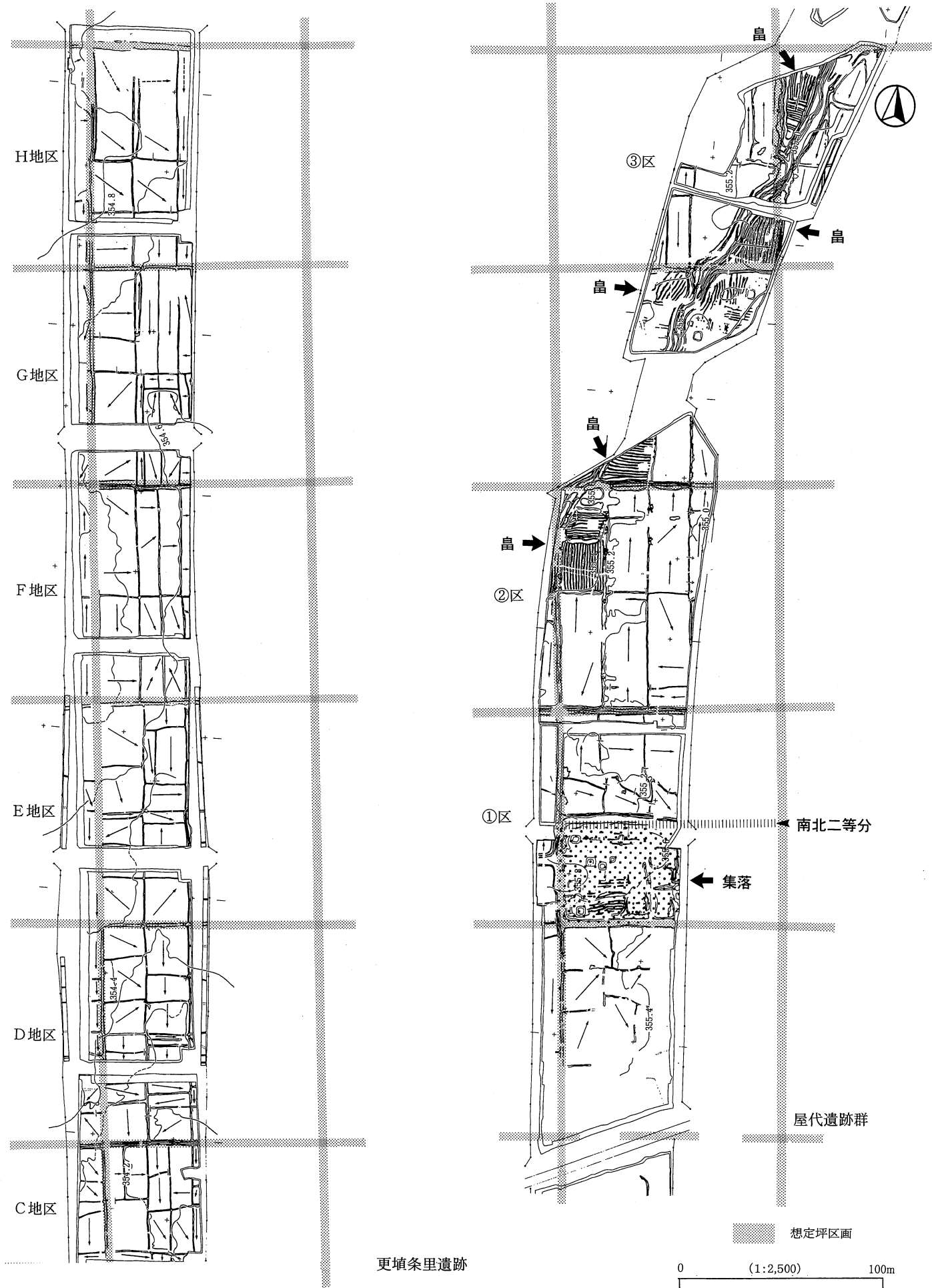
遺存状況凡例
A：埋没水田(砂層)
B：埋没水田(泥炭層)
C：連続耕作・土壌表
D：酸化鉄集積帯
E：杭列畦畔

第2表 水田遺跡文献一覧

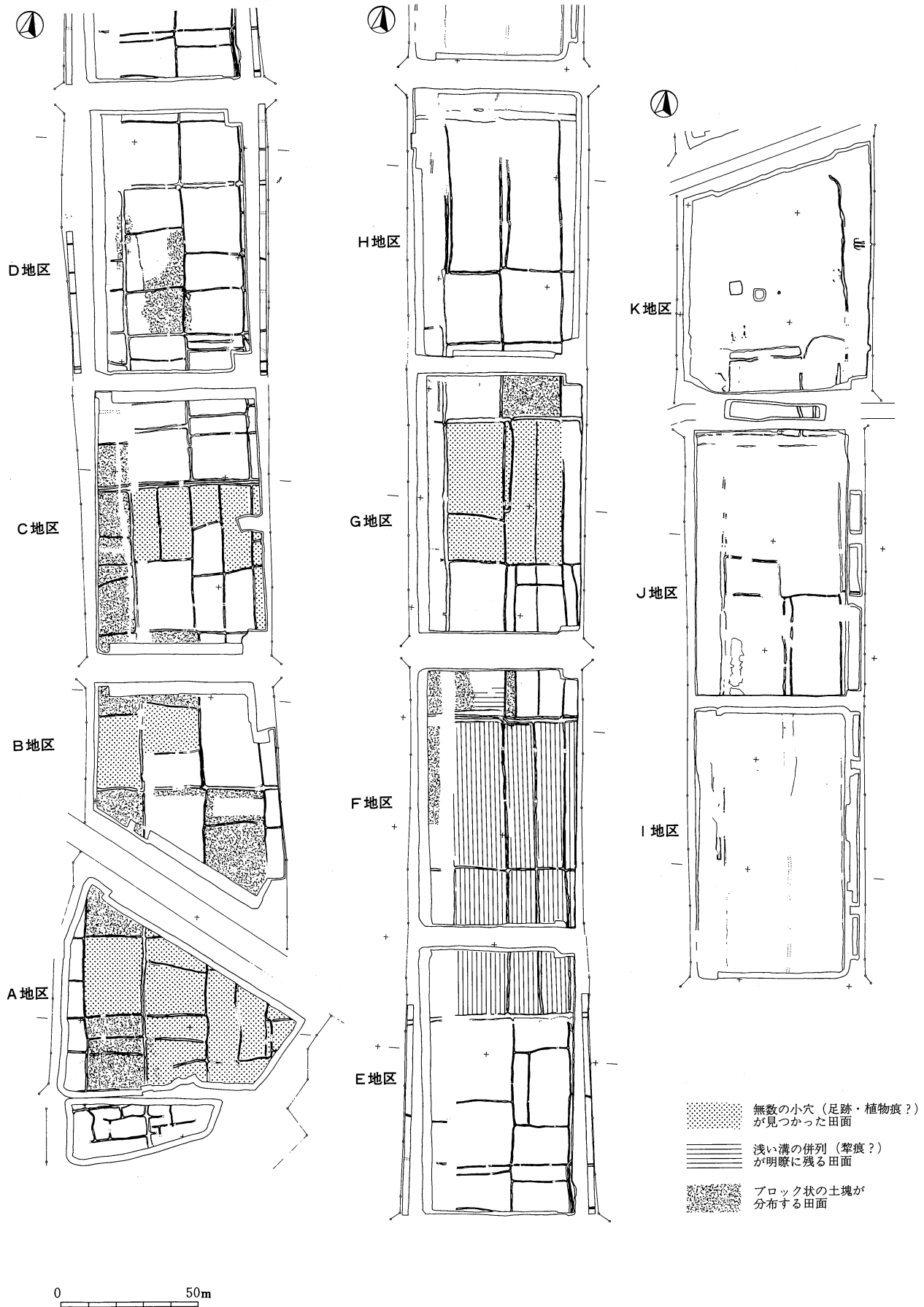
番号	文献名
1	(財)長野県埋蔵文化財センター1997『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書13—小布施町内・中野市その1・その2—飯田古屋敷・玄照寺跡・がまん淵遺跡・沢田鍋土遺跡・清水山窯跡・池田端窯跡・牛出古窯遺跡』
2	(財)長野県埋蔵文化財センター1998『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書5—長野市内その2—浅川扇状地遺跡群・三才遺跡』
3	長野県埋蔵文化財センター1999『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書11—長野市内その9—春山遺跡・春山B遺跡』
4	長野県埋蔵文化財センター2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書10—長野市内その8—川田条里遺跡』
5	長野市教育委員会1983『浅川扇状地遺跡群迎田遺跡・川田条里遺構・石川条里遺構』
6	(財)長野県埋蔵文化財センター1997『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15—長野市内その3—石川条里遺跡』第1分冊
7	(財)長野県埋蔵文化財センター1998『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書4—長野市内その1—篠ノ井遺跡群・石川条里遺跡・築地遺跡・於下遺跡・今里遺跡』
8	長野市教育委員会1984『石川条里遺構(2)・上駒沢遺跡』
9	長野市教育委員会1985『石川条里遺構(3)・(付上駒沢遺跡)』
10	長野市教育委員会1989『石川条里遺跡(4)』
11	長野市教育委員会1991『塩崎遺跡群(6)・石川条里遺跡(5)—塩崎遺跡群市道篠ノ井南253号線地点—・—石川条里遺跡消防塩崎分署地点』
12	長野市教育委員会1992『石川条里遺跡(6)—篠ノ井西部地区県営圃場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書—』
13	長野市教育委員会1993『石川条里遺跡(7)—長野市北野土地地区面整理事業・県営みこと川団地建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
14	長野県埋蔵文化財センター2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書27—更埴市内その6—更埴条里遺跡・屋代遺跡群 (含む大境遺跡・窪河原遺跡)—古代2・中世・近世編—』
15	長野県埋蔵文化財センター1999『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26—更埴市内その5—更埴条里遺跡・屋代遺跡群 (含む大境遺跡・窪河原遺跡)—古代1編—』
16	(財)長野県埋蔵文化財センター1998『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書25—更埴市内その4—更埴条里遺跡・屋代遺跡群 (含む大境遺跡・窪河原遺跡)—弥生・古墳時代編—』
17	(財)長野県埋蔵文化財センター1998『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書3—更埴市内—更埴条里遺跡・屋代遺跡群』
18	更埴市教育委員会1978『屋代馬口K—長野県更埴市屋代遺跡群馬口K遺跡緊急発掘調査報告書—』
19	更埴市教育委員会1986『屋代遺跡群馬口遺跡—長野県屋代高等学校改築に伴う発掘調査報告書—』
20	更埴市教育委員会1987『屋代遺跡群馬口遺跡II—長野県屋代高等学校体育館建設に伴う発掘調査報告書—』
21	更埴市教育委員会1987『屋代遺跡群北中原遺跡—市営住宅屋代団地建設に伴う発掘調査報告書—』
22	更埴市教育委員会1988『屋代遺跡群馬口遺跡III—長野県屋代高等学校プール等建設に伴う発掘調査報告書—』
23	更埴市教育委員会1988『屋代遺跡群北中原遺跡II—市営住宅屋代団地建設に伴う発掘調査報告書—』
24	更埴市教育委員会1989『屋代遺跡群馬口遺跡IV—長野県屋代高等学校合宿所建設に伴う発掘調査報告書—』
25	長野県教育委員会1968『地下に発見された更埴市条里遺構の研究』
26	更埴市教育委員会1992『屋代清水遺跡—(仮称)県立歴史館建設に伴う発掘調査報告書—』



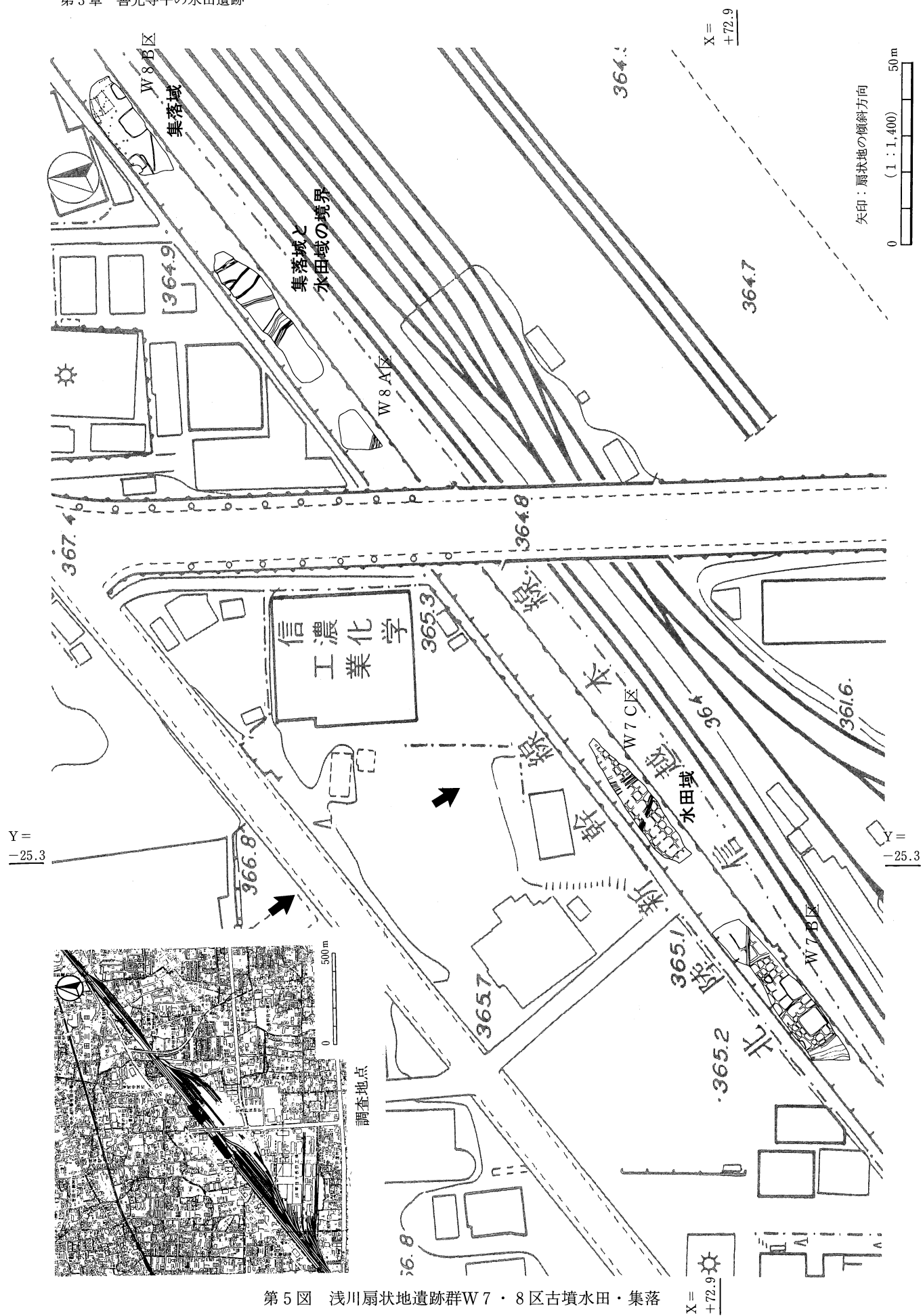
第2図 屋代遺跡群・更埴条里遺跡 古墳水田と条里水田



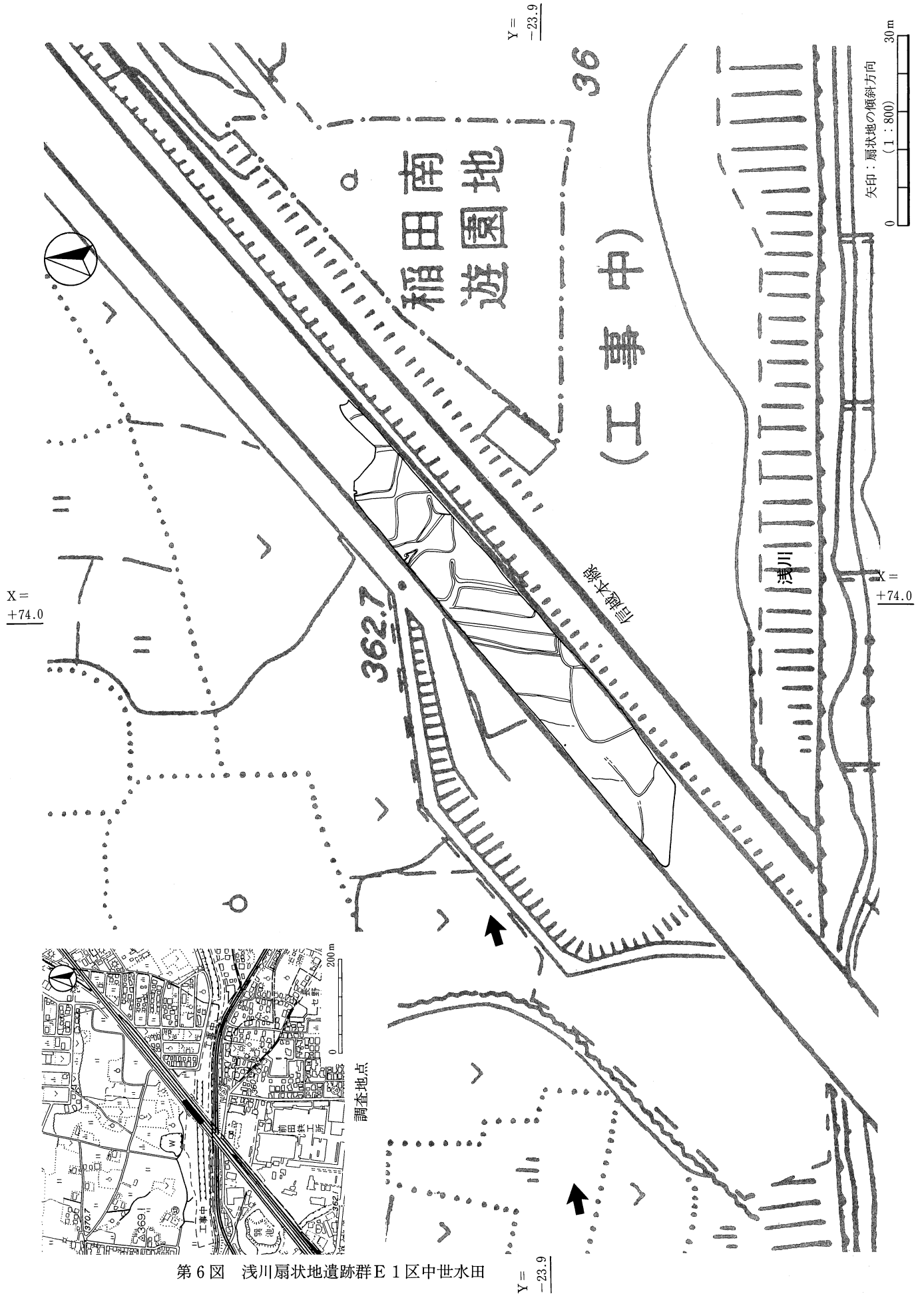
第3図 屋代遺跡群・更埴条里遺跡 坪区画と坪内の土地利用



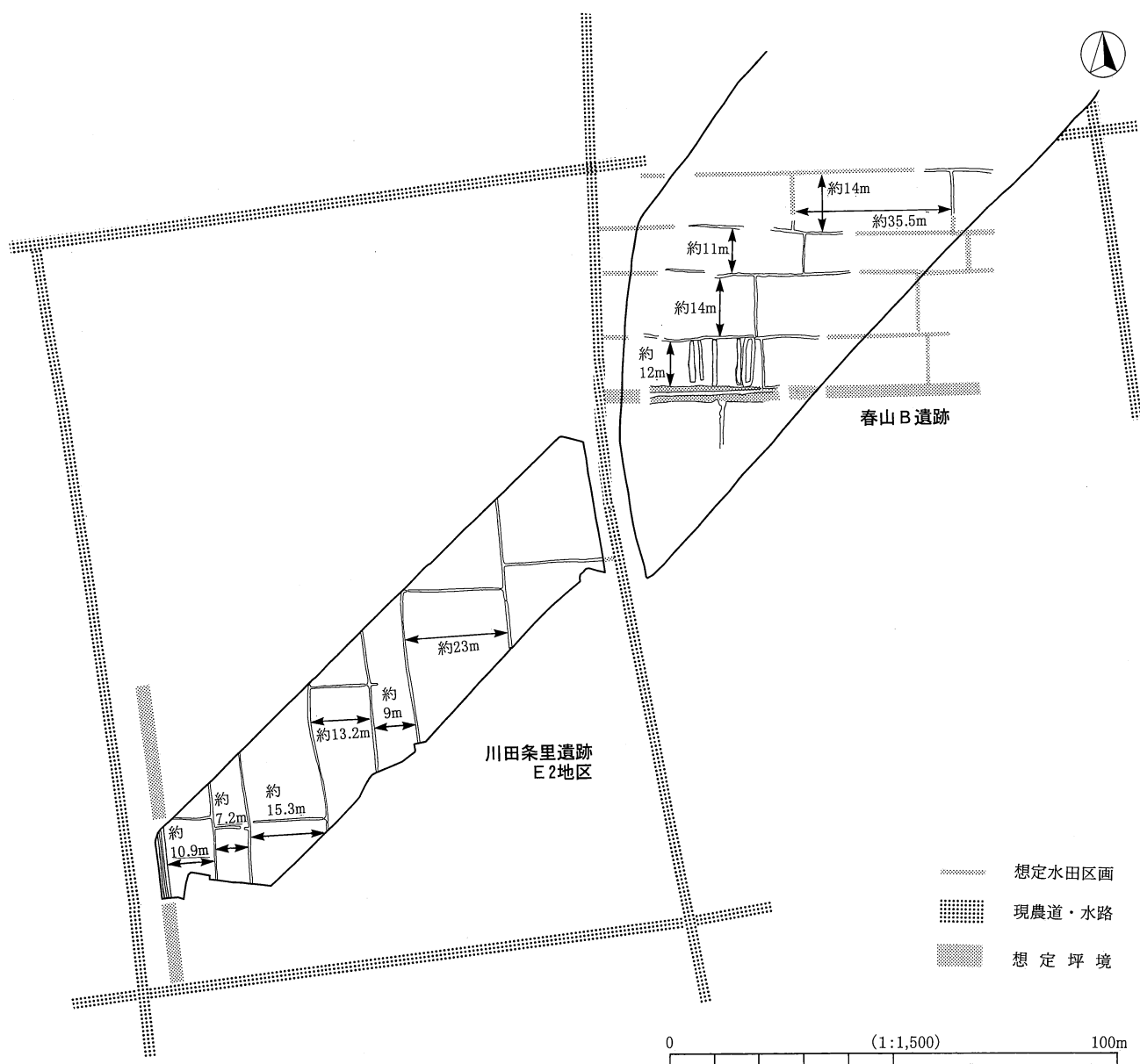
第4図 更埴条里遺跡 条里水田面に残る耕作痕跡（河西1999より転載）



第5図 浅川扇状地遺跡群W7・8区古墳水田・集落



第6図 浅川扇状地遺跡群E 1区中世水田



第7図 川田条里遺跡（E2地区）と春山B遺跡の近世水田

註

- 1 この洪水を文献史料（『類聚三代格』）に記された仁和4年（888）の洪水によるものとの認識が広まりつつある。
- 2 西山良平 1996 「山城 山城国葛野郡班田図」（『日本古代荘園図』）
- 3 砂層堆積後に古墳中期の堅穴住居址が構築されている。報告書には掲載されていないが、調査時に水田面から4世紀代の小型丸底土器が出土したと記憶している。調査後、水田面と被覆砂層出土土器の再検討を行っていないため、ここでは埋没時期を「古墳前期～中期」とする。

参考文献

- （財）長野県埋蔵文化財センター 1998 『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書5—長野市その2—浅川扇状地遺跡群・三才遺跡』
- 白居直之 1999 「（1）近世埋没水田址」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書11—長野市内その9—春山遺跡・春山B遺跡』
- 河西克造 1999 「条里水田の成立と展開」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26—更埴市内その5—更埴条里遺跡・屋代遺跡群—古代1編—』
- 戸田芳実 1959 「中世初期農業の一特質」『日本領主制成立史の研究』